

令和8年度 第1回 城北小学校運営協議会 会議録（要点記録）

- 1 開催日時 令和8年4月23日（木） 14時00から15時30分まで
- 2 開催場所 城北小学校 会議室
- 3 出席委員 大谷 好律、袴田 泰哲、山崎 えみ子、加藤 剛士、中川 智博、
紙上 理恵、高田あゆみ、石坂 紀子
- 4 欠席委員 なし
- 5 オブザーバー 岩井 弘美子（学校運営協議会前会長）、井下 俊輔（青少年の家）
森下 和之（高台協働センター）
- 6 学 校 山下 淳（校長）、古橋 麻紀子（教頭）、太田 礎子（教務主任）
田村 静（CSディレクター）
- 7 傍聴者 なし
- 8 会議録作成者 CSディレクター 田村 静
- 9 浜松市学校運営協議会規則の確認
教頭より、浜松市学校運営協議会規則の第3条・第5条・第6条・第12条・第14条の説明があり、委員全員が確認した。
- 10 会長の選出及び副会長の指名
教頭より、会長の選出について委員に意見を求めたところ、中川委員より大谷委員を会長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。また、大谷会長より袴田委員が副会長に指名された。
- 11 議長の選出について
教頭より、議長の選出について委員に意見を求めたところ、中川委員を議長に推挙する旨の発言があり、全員異議なくこれを承認した。
- 12 令和7年度 協議会自己評価の確認
中川委員より、令和7年度 協議会自己評価についての説明があり、委員全員が確認をした。
- 13 協議事項
(1) 学校運営の基本方針について
(2) いじめ防止等のための基本的な方針
(3) 夢育やらまいか事業（CS加算分）に対する意見書について
- 14 会議記録
教頭より、委員総数8名のうち全員の出席があったため、会議が成立している旨の報告があった。
(1) 学校運営の基本方針について
校長より、令和8年度の城北小学校 学校運営の基本方針についての説明があり、全員異議なく承認された。
(2) いじめ防止のための基本的な方針
校長より、いじめ防止のための基本的な方針についての説明があり、委員からは以下の発言があった。
・何気ない行動で、気持ちが無いにもかかわらず、周りに流されて行ってしまう子どもの行為をどのようにして未然に防げばよいか。資料の文面を吸い取り、子供に伝えることが難しい。（紙上委員）
→頭ごなしに叱るのではなく、第一声に理由や背景を問う声掛けが大事。（校長）
・親が気付かなかった事案に対して、学校側から早期発見・対応して貰ったことがある。（高田委員）
→行動がエスカレートする前に、学校側は子どもときちんと話し合いたいと考えている。生徒指導を中心として校長の判断で早急に認知・対応をして究明するよう意識している。（教頭）

・ 昨年の城北小では、いじめの重大案件は1件も出ていない。(中川委員)

・ 行動を起こした側にも何かしら理由があるはずなので、しっかりケアして欲しい。いじめだけではない、根本的なものがあるのかもしれない。(石坂委員)

→ 行動などの表れはきっかけに過ぎず、子どもによっては悩みなどの様々な気持ちが混在している場合が多い。(太田教務主任)

・ 多様化の時代において、乗り越えられる子どもばかりではない。(中川委員)

・ 子どもたちは色々経験し、教えて貰わないと分からない場合がある。親以外の大人が、仲間に入りたいときの表現方法等を教えられると良い。地域においても、気になるようなことを耳にしたり見掛けたりした場合は、声掛けが出来ると良いと思う。(山崎委員)

・ 下校の際でも様々な人間模様が見られるので、注視したい。対象になっている子どもがいたとしても、特定できないので困る。(石坂委員)

→ 下校中に気になることを見かけた場合は、地域の方々其々の立場でご一報いただけると助かる。翌日からの対応に繋がる。(教頭)

・ 被害者と加害者の認識の違いが多々あると思われるので、早期対応で積極的に関わっていく姿勢は、興味深いと感じた。解決しない場合はどのように対応しているのか。(加藤委員)

→ 学校だけで解決することが難しい場合は多々ある。学校と家庭の両方でじっくり関わり合って指導していく。担任だけではなく、様々な立場の教職員が一丸となって、継続して対応していくことが一番の解決の近道だと感じている。(教頭)

・ より多くの存在が関わって、まめに声を掛け合うことは良い方法。状況に変化が無いと悪化するイメージがある。(加藤委員)

・ いじめの定義が変わってきた。昔はいじめで命まで失うことは無かった。(袴田副会長)

→ コミュニケーションが不足している場合が多い。多様性を認めたい気持ちはあるが、複雑な感情も抱いているなど、子どもたちだけで気持ちを整理することが難しいためにトラブルに繋がる。大人の介入が必要な場合が多い。(太田教務主任)

・ 今の子どもたちはドライ。子ども間においても、良いことや悪いことをサラッと口にするように思える。(中川委員)

・ 本当に行って欲しいのは、心の教育。子どもを認めて褒めて無視をしない。学校は“対応”から一歩踏み出して、子どもの心を耕して育てて欲しい。先生方一人一人が、生き方についての考えを持って対応して貰いたい。(岩井さん)

・ 先生方が気付かないようなことを地域の人が察知したことにより、解決に繋がる場合もあるが、個人情報の関係でどこまで情報を伝えて良いかが難しい。学校側から情報を提供して貰えるのであれば、力になれることもあると思う。(鈴木さん)

・ 今は言葉以外でもコミュニケーションが取れてしまうが、顔と顔を合わせて、自分の言葉で伝えることが大事。不登校の子でも、周りが気付かないほど溶け込んで活動に参加していた事例があった。何か気になることがあった場合には、先生方に声掛けして協力が出来れば、一つの糸口となるかもしれない。活動等で知り得た情報を発信する場合は慎重になってしまう。

(井下さん)

・ 学校だけで子どもを救って対応していくのには限界がある。自分たちは大人としてどうなのかと考えながら、子どもたちと接していく必要がある。地域においても、子どもと関われる場所、会話が出来る関係性を作っていけば、一つの道筋が見えてくるように思われる。(大谷会長)

・ 開かれた学校という観点において、地域や親、施設を含めて、声掛けや連絡等による連携・協力が重要

だと感じた。(中川委員)

(3) 夢育やらまいか事業(CS加算分)に対する意見書について

教頭から、夢育やらまいか事業についての説明があり、全員異議なく承認された。

その他報告事項等

(1) 城北小サポーターとつくる特色ある学校づくり年間計画

(2) 学校支援CDから4月の城北小サポーター活動計画と今後の活動についての報告

その他連絡

次回の運営協議会は6月25日(木)13時15分～14時00分 授業参観、14時10分～15時30分
学校運営協議会を城北小学校会議室にて行う。